

いま「協同」を拓く 2002全国集会 in千葉 主催者挨拶

中川雄一郎(実行委員会代表／明治大学教授／協同総研理事長)

ご紹介いただきました協同総研の中川です。今日は大変寒くて、その上冷たい風も吹いておりまして、どのくらいの方がご参加いただけるかなと心配でしたが、たくさんの方々にご参加いただきまして誠にありがとうございます。まず御礼を申し上げます。

今日は千葉大学の学長先生、堂本千葉県知事、基調講演を大内力東大名誉教授、ならびにILO駐日代表の堀内光子さんにご講演をいただくことになっております。それから、今日のこの千葉大学の会場をいろいろお世話いただきました、教育学部教授の宮本先生に心から御礼を申し上げたいと思います。また、千葉大の工学部教授の延藤先生

にもご協力いただき、改めてお礼を申し上げます。

私は、1999年に日本労働者協同組合連合会の前理事長の永戸さんと現理事長の菅野さんと3人でケンブリッジ大学を訪れ、1998年にノーベル経済学賞を受賞されたアマーティア・セン先生にお話を聞きました。非常に示唆にとんだお話をしていただきました。その後セン先生の本などをかなり私なりに読みました。セン先生の持論と申しますか、開発論の中には、自分の生活を本当に良くしていくためには、私たちがどんな状態でおるべきか、あるいはどんな行動をしなければならないのか、ということを考えることになる、とあります。それをセン先生は潜在能力というように表現しております。「私たち人間の持っている潜在能力を拡大していく、あるいは私たちの行動の選択肢を広めていくことをサポートする制度があるかないかということが、非常に大切である。もし制度が私たちの持っている潜在能力を促進する、向上させることを妨害するのであれば、その制度は直ちに廃止されなければならない。」とおっしゃっておりま





す。そして、「私たちの潜在能力をサポートし向上させる制度が社会に存在しないのであれば、そのために新しい制度をつくっていかねばならない。」ということもおっしゃっていました。これは実は私たちが現在求めております、協同労働の協同組合という制度をどうつくっていくか、ということと大きくかかわりを持っております。現にいま我々が目指している制度はございません。「もしそういう制度をつくらなければならないというのであれば、私たちは政治的・市民的な権利を行使して、主体的に行動しなければならない。」とセン先生がおっしゃっているように、多様な文化・多様な人々のニーズを認めながら、この社会をよりよい方向に持っていかねばならないのです。

今こそ我々は政治的・市民的権利を行使し、主体的に行動をして、協同労働の協同組合の法律をつくり、そのことを通じて、現在の日本の閉塞状態を打破していかねばいけません。この集会、「いま協同を拓く2002全国集会 in 千葉」のサブテーマは、「生命・労働・地域の再生を担う新しい力を求め

て」ということであります。その新しい力を求める基盤になるのは、協同労働の協同組合法であろうかと私は考えております。今日と明日のみなさまの熱い議論、検討の中で私たちが求めるものを培っていきたいと思っております。今日明日、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。